

特別企画「野島稔メモリアル」開催

第1回～第7回のピアノ部門審査委員長、2020年1月より運営委員長をお務めくださり、2022年5月9日に逝去された野島稔先生を偲んで、来年の春に下記2つの公演が実施されます。

(1) もっと教えて野平一郎先生～鍵盤楽器の歴史と魅力～

<日時> 2024年3月30日(土) 14:00開演
<会場> 日立システムズホール仙台 コンサートホール
<出演者> 野平一郎(第9回仙台国際音楽コンクールピアノ部門審査委員長)



野平一郎先生

野平一郎先生は前回の第8回コンクールよりピアノ部門の審査委員長を務められています。第8回コンクールの直前2022年3月に、コンクールボランティアプロジェクトVol.27「コンクールを120%楽しむために…教えて野平せんせい!!」が開催されました。先生の素晴らしい演奏とともに、音楽やコンクールへの想いを語っていただきました。今回の「もっと教えて野平一郎先生～鍵盤楽器の歴史と魅力～」では、鍵盤楽器の変遷や現代ピアノの魅力についてのお話と、ポジティブオルガン・チェンバロ・ピアノの演奏をお楽しみいただきます

(2) 中野りな&ルウォ・ジャチン デュオリサイタル ～第8回仙台国際音楽コンクール優勝者による夢の共演～

<日時> 2024年3月31日(日) 14:00開演
<会場> 日立システムズホール仙台 コンサートホール
<出演者> 中野りな(ヴァイオリン)、ルウォ・ジャチン(ピアノ)



中野りな ルウォ・ジャチン

2022年第8回コンクールの覇者、2人によるスペシャルコンサート。同一回優勝者による、まさに夢の共演がここ仙台で実現します。今年5月にルウォ・ジャチンさん、6月に中野りなさんの優勝記念リサイタルが東京と仙台で開催されました。目覚ましい成長を見せる2人の演奏に感動しました。ルウォ・ジャチンさんは1面のインタビュー記事での紹介の通り、意欲的にコラボレーション(協演)に取り組まれています。中野りなさんも共演するピアニストと音楽を創り上げることへの熱い想いのあるヴァイオリニストです。第8回の優勝者2人が互いの音楽を共有し、創りあげる共演の響きをお楽しみに!

第8回のコンクール開催直前に届いた野島稔先生の訃報は、ボランティア一同に深い悲しみを与えました。先生の若い音楽家育成への想いや、コンクールでの様々なご活動の様子が思い起こされます。先生が第1回より携わってくださったこのコンクールを、私たちボランティアはこれからも支えていきたいと思えます。

チケットはいずれも2023年11月15日(水)発売です。詳細は、公式サイトにてお知らせいたします。

第8回コンクール優勝者 CD発売情報

【発売中】第8回仙台国際音楽コンクール 公式ライブCD 第8回コンクール演奏のライブ録音



■中野りな(ヴァイオリン)

[FOCD9875]
モーツァルト: ヴァイオリン協奏曲 イ長調 K219
バルトーク: ヴァイオリン協奏曲 第2番 Sz112
(指揮: 広上 淳一、管弦楽: 仙台フィルハーモニー管弦楽団)



■ルウォ・ジャチン(ピアノ)

[FOCD9876]
モーツァルト: ピアノ協奏曲 八長調 K503
プロコフィエフ: ピアノ協奏曲 第2番 短調 op.16
(指揮: 高関 健、管弦楽: 仙台フィルハーモニー管弦楽団)

【2023年12月6日(水)発売】第8回仙台国際音楽コンクール 優勝記念CD

■中野りな(ヴァイオリン) ピアノ: 小井土文哉
[FOCD9887]
モーツァルト: ヴァイオリン・ソナタ イ長調 K305
ブーランク: ヴァイオリン・ソナタ FP119
イザイ: 無伴奏ヴァイオリン・ソナタ 第5番 長調 op.27-5
R.シュトラウス: ヴァイオリン・ソナタ 変ホ長調 op.18

■ルウォ・ジャチン(ピアノ)
[FOCD9888]
フォーレ: ヴァルス・カプリス 第1番 イ長調 op.30
フォーレ: ノクターン 第6番 変ニ長調 op.63
スクリャーピン: ピアノ・ソナタ 第7番 op.64 「白ミサ」
シューマン: ピアノ・ソナタ 第1番 嬰へ短調 op.11
シュルツ=エヴァー: ヨハン・シュトラウスの「美しく青きドナウ」によるアラバスク

2023年6月15日、18日に行われたリサイタルの曲が収められています。

2023年5月24日、28日に行われたリサイタルの曲の一部が収められています。

定価: 各2,640円(税込)
取り扱い: 全国のCDショップ、日立システムズホール仙台1階事務室、仙台国際音楽コンクール事務局 他
販売元: 株式会社フォンテック 制作: 公益財団法人 仙台市市民文化事業団

発行: 第8回仙台国際音楽コンクール 広報宣伝サポートボランティア

[コンクール公式 X(旧Twitter)] @sendai_simc [ボランティアブログ X(旧Twitter)] @simc_volblog

問合せ: 仙台市市民文化事業団音楽振興課(仙台国際音楽コンクール事務局) Tel: 022-727-1872 / e-mail: info@simc.jp / URL: https://simc.jp

SENDAI
INTERNATIONAL
MUSIC
COMPETITION
for Violin & Piano

仙台国際音楽コンクールニュース



コンチェルト
Concerto



Vol.8-9

(2023.9.15 第8回コンクール関連 第9号)

第8回仙台国際音楽コンクール 優勝者インタビュー

ルウォ・ジャチンさん(ピアノ)
中野りなさん(ヴァイオリン)

優勝記念リサイタルのために来仙されたルウォ・ジャチンさん、中野りなさんのお二人にそれぞれお話を伺いました。

ルウォ・ジャチンさん(ピアノ部門優勝)



ルウォ・ジャチンさんのお名前は中国語でどのように書きますか。名前の由来も教えてください。「羅 加卿」と書きます。父の名前と母の名前を合わせた名前です。

すてきな名前ですね。ではジャチンさんの幼少の頃のお話を聞かせてください。生まれ故郷はどのような町でしたか。湖南省婁底市(ろうていし)というところです。普通の町ですが、多くの子供が音楽を学んでおり、音楽活動も盛んです。クラシック

音楽の活動も多いです。食事もおいしいですよ。音楽を学ぶという点ではよい環境だと思います。

婁底市(ろうていし)の子供たちが学ぶ楽器はなにが多いですか。武漢の音楽院が近いこともあり、ピアノを習う子供が多かったです。

仙台国際音楽コンクール(以下SIMC)に出場を決めた理由をお聞かせください。

ダン・タイ・ソン先生が審査委員でいらっしゃるということもありますが、インターネットで様々なコンクールを検索するなか、このコンクールの審査委員が素晴らしい方々であること、出場者も皆ハイレベルであることが分かり出場を決めました。また、日本に行ってみたくということもありました。私にとってSIMCへの出場が初訪日となりました。

仙台やSIMCの感想、また仙台フィルの印象をお聞かせください。仙台にはとても良い印象を持ちました。よく散歩をしましたし、空気も天気もよく食事もおいしかったです。練習につく練習、というよりは散歩や食事で気分転換ができました。もちろん練習もしましたが(笑)、リフレッシュしながら良い状態でコンクールに臨むことができたと思っています。

SIMCは運営や管理がしっかりしており、サポートも手厚かったです。オーケストラも素晴らしいです。それまで仙台フィルの演奏は聴いたことがなかったのですが、実際に一緒に演奏をしてみて私の音をよく聴いてくれたと思います。総合的にみても大変良い印象で、素晴らしい経験でした。

コンクールでのピアノの選択はどのような考えで選びましたか。弾いてみて自分の指に合うかどうかという点です。「合う」というのは自分の指に吸い付くような感じというか、勝手に指が動くというか、ピアノをコントロールしなければ、という感覚

ではなく自然にフィットするという感覚です。演奏するホールなどその時々によって異なるのですが、SIMCでは、自分の選曲にも指にも一番フィットしたのがKAWAIのピアノでした。

いまジャチンさんが学んでいる大学では日本製のピアノは入っていますか。

在籍している大学では、ほぼスタインウェイですね。中国の学校はほぼ日本のピアノでした。

コンクールに優勝して大きく変わったことはありましたか。友人達がたくさん祝福してくれました。とはいっても日々の練習や勉強は続きますので、大きく変わったということはありません。

アメリカ留学中(ニューイングランド音楽院在籍)とのことで、どのような生活を送っていらっしゃるのでしょうか。

去年は他の学生とコラボレーション(協演)する授業が多くあり、ピアノだけでなく他の楽器を専攻している学生とコラボレーションする機会もありました。半日に4つの異なるグループと練習や演奏をした日もありました。大変でしたけれど一人で練習するよりいろいろな方の演奏や音楽観を見聞きたほうが自分にとってよい経験になりますし、先生方や学生達と話をすることが、自分の音楽生活にとっても良い影響を与えていると考えています。

ダン・タイ・ソン先生はどのような先生ですか。

彼はとても優しい先生です。学生のことをしっかり見ており、きめ細やかで熱心な指導をしてくださいます。また、先生と様々な話をしますが、特に先生のコンサートの話を通じて、演奏スタイルや演奏家としてのふるまい方、音楽家としての経験を学ぶことが多いです。

覚えた日本語はありますか。

たくさんあります。今年はリサイタルの準備等が忙しくて通えていませんが、昨年はプライベートの日本語レッスンを受けていました。

好きな日本のアニメは何ですか。

京都アニメーションが制作したアニメはどれも好きです。特に「日常」という作品が好きです。

音楽以外の趣味やリラックス方法を教えてください。

もしこの答えを聞いたら、私が音楽家だとは思わないかもしれませんがね(笑)。アニメもゲームも好きなのですが、卓球が本当に大好きで今回もラケットを持参してきました。かつて寮にいたときは、毎日疲れるまで友人と卓球をしていました。そうしてリラックスをしています。

次のページに続く→

(前ページからの続き) ルウオ・ジャチンさんインタビュー

中国のクラシック音楽事情はどのような状況でしょうか。
コンクールは多く開催されています。国内のピアノコンクールで子供から大人まで約8千人の応募があったコンクールもありました。チャイコフスキー国際コンクール、ショパン国際ピアノコンクールに出場する方も多くいます。
中国国内のコンサートも盛んに開催されておりマスタークラスなどもあります。クラシック音楽に関しては良い環境、高い水準で維持されていると思います。大きくて立派な音楽ホールもありますよ。また、最近は大人になってからピアノを習い始める方も多いようです。

今取り組んでいることや将来取り組んでみたい楽曲やテーマなどはありますか。
中国や名古屋でのコンサートがあります。大好きなプーランクの

中野 りな さん (ヴァイオリン部門優勝)



ヴァイオリンとの出会いはいつですか。
実際の記憶があまりないのですが、6歳上の兄を見て弾く真似しているうち、3歳から習うようになりまし

バレエも3歳の時から習い続けているそうですね。
バレエ教室がヴァイオリンをやっていることに対してとても理解があり、コンクールなどで休んでも、大丈夫と受け入れてくださいます。とても通いやすいので今まで続けられています。今も時間がある時に気分転換に行っています。

桐朋学園大学でどのような学生生活をされていますか。
厳密に言うとう大学の学部ではなく、ディプロマコースという実技レッスンがメインのコースに在籍しています。学部の授業も取れるので、自分で受けたいものを受けています。音楽史の授業でもたくさん種類があり、特定の時代だけを扱っていたりするので、その中から好きな授業を受けて、それ以外は練習をするという感じです。一日の練習時間は平均すると6時間ぐらいでしょうか。

師事されている辰巳明子先生について教えてください。
学生側のやりたいことを尊重してくださる先生です。やろうとすることができていなかったり、間違った方向に行ってしまうときは、ちゃんと曲のスタイルに合うよう教えてくださいます。

高校時代に得意科目・苦手科目はありましたか。
得意かどうかは音楽高校だったので何とも言えませんが、好きだったのは数学や体育です。あとはやはり音楽系の科目です。苦手な科目はあまり意識したことがないので…わかりません。

仙台国際音楽コンクールに出場した理由を教えてください。
それまでシニアの国際音楽コンクールを受けたことがなかったのですが、日本で国際コンクール自体が珍しいなか仙台で行われていてチャレンジしやすかったこと、課題曲や予選からオーケストラと一緒に演奏できるのがとても勉強になりそうだし、出場しました。

コンクールで印象に残っていることは何でしょうか。
オーケストラとの共演がとても勉強になりました。本番だけではなくリハーサルも合わせると何度も一緒に演奏できたので、本当に楽しかったです。オーケストラの皆さんは、コンクールを受ける側と違ってたくさんの曲を演奏するので大変だと思いますが、皆さん一生懸命演奏してくださってるのを感じたので、嬉しかったです。

作品やグラナドスの「ゴイエスカス」に取り組みたいです。

今後の進路で決まっていることがあれば教えてください。
あと1年大学で勉強を続け、その後はドイツに留学してみたいです。

将来の夢をお聞かせください。またどのような音楽家になりたいですか。
夢は音楽を続けてゆくことです。その音楽にどのような物語があるのか、音楽の持つイメージや色を演奏で伝えられるように、聴き手が様々な物語を感じられるような演奏のできる音楽家になりたいと思っています。

優勝記念リサイタルではピアノの小井土文哉さんと共演されました。
今年1月に初めて共演しましたが、順番としては今回の優勝記念リサイタルでの共演の方が先に決まっていたと思います。小井土さんが経験が多いこともあり、リハーサルの時にもいろいろアドバイスをくださいました。

コンチェルトやアンサンブルの経験はいかがですか。
コンチェルトは仙台のコンクール以降、演奏する機会が増えたと思います。アンサンブルは高校生の時に二年間、私がヴァイオリンで、ヴィオラとチェロでトリオを組んでいました。今年からカルテットを組む予定です。自分ひとりで弾くわけではないので、リハーサルの時など自分の視点だけでなく、みんなそれぞれ違う視点を持っているので、いろいろな意見が出るのが興味深いです。

続けられているバレエは演奏に何か影響がありますか。
バレエと音楽は本当に密接な関係にあると思います。例えばチャイコフスキーはたくさんバレエ音楽を作っていますよね。でも実はチャイコフスキーの曲をまだあまりやったことがありません。これから勉強して、バレエとの関係がわかるようになればと思っています。あとはヴァイオリンを弾くとき、普段と違う歪んだ姿勢になってしまうことが多いですが、バレエで姿勢を整えているのはいいかもしれないなと思っています。

演奏で心がけていることは何でしょうか。
聴いているお客様に音楽をプレゼントする気持ちを忘れないようにしようと思っています。あとは演奏する時にストーリーを考えてそれを忘れないようにして、音楽だということを意識するようにしています。上手に弾こうと思うことよりも音楽そのもののことを忘れないようにしたいと思っています。

今取り組んでいらっしゃることは何でしょうか。
より良い音を出せるようにすることです。どうしても力が入ってしまうのですが、脱力した時に一番いい音が出るので、いかに脱力した状態で演奏できるかということです。

これからの夢や、してみたいことを教えてください。
ヨーロッパに長期滞在して、その文化や言語を勉強したいです。また、実際そこで音楽が誕生したわけですので、作曲家が住んでいた家やそれにまつわる博物館などがたくさんあると思います、そのような場所を訪れて、その作曲家がどういった気持ちで作曲していたのかなどをもっと勉強して、それを演奏や曲で再現できるようにしたいと思っています。

ファンの方にメッセージをお願いします。
来年3月にジャチンさんと共演しますが、ジャチンさんはとても明るく、音楽もとても自由でのびやかなので、リハーサルを含めて、どのように音楽を作って一緒に演奏していくか楽しみです。共演機会をいただけてとても嬉しく、楽しんで演奏できたらなと思います。

橘和 美優 さん(第8回ヴァイオリン部門 第5位) インタビュー

7月3日に行われた「市制施行134周年 記念コンサート」のソリストとして来仙された橘和美優さんにお話を伺いました。



音楽を始めたきっかけ、ヴァイオリンとの出会いについて教えてください。
音楽大学出身で、指導や演奏活動をしていた母の下で2歳から始めました。5歳ぐらいまで母に教えてもらい、その後窪田寿子先生に高校生になるまで教えて頂きました。母が何時間も練習に付き合ってくれて、その時たくさん練習した影響は大きいと思います。その後東京藝術大学附属高等学校(芸高)で大谷康子先生に師事するようになりましたが、それまで私が「音程が合って先生に言われたとおりにすればいいだろう」というスタンスだったところを根本から直されて、本当に細かいところまで教えてもらいました。技術的なことだけでなく、音楽は「歌う」ことがとても重要だと教わりました。

ヴァイオリンをやめたいと思った時期はありましたか。
もともと私は練習が大嫌い、すぐさぼってテレビを見たりしていましたが、やめたいと思ったことはありません。ただ、コロナ禍の時に音楽業界が必要のないもの、不要不急となったときに何のために自分が音楽やってるのかと、ちょっと迷うようなことがありました。演奏会も無く、学校も行けず、ずっと一人で楽器と向き合っていく中で、音楽が必要ないものだと思われているのがすごく悲しく残念で、どうやったら必要なものだと思ってもらえるのかとすごく悩んだ時期がありました。

音楽でやっていこう、と決められたのはいつでしたか。
小学4年生の時にフランスのジェラルド・ブーレ先生のマスタークラスに参加し、レッスンを毎月受けるようになりましたが、さい頃から指導を受けていた窪田先生から「本気でやると決めないと受けさせてあげないよ」と言われたことが、しっかり目指すきっかけになりました。

東京藝大の入試は大変だと言われていますが、どうでしたか。
実は実技試験に関しては、芸大よりも芸高に入る方が難しいと言われていています。芸高は一学年40人で、ヴァイオリンは10人くらいしか受かりません。芸高生は一般教科の勉強がおろそかになりがちで、芸大受験では実技よりもセンター試験の勉強の方が大変でした。三年生になると受験対策でずっと過去問をやらされましたが、私は本当に出来なすすぎで、入試の前に初めて塾に3ヶ月ほど通いました。実技試験についてはセンター試験が終わってから練習する、という人が多かったです。

コンクールに対する思いはいかがでしょう。
一回の大きな舞台はどんな練習よりも大事な経験になると思っていて、特に私は日本音楽コンクールに入選してすごく成長できたと思います。大学2年生の時がターニングポイントでした。日本音コン応募3回目で初めて最後まで残ってそこで初めて大きな舞台でオーケストラと共演して、その経験がすごく大きかったと思います。いろいろな人に出会う機会が増えましたし、お仕事をいただいて素晴らしい人と共演させていただく機会も増え、そのような中でたくさんの方のサポートを受けて成長できたと思うので、コンクールって大事ななと思います。今後は海外のコンクールに挑戦しようかと思っています。

ボランティアプロジェクト Vol.28 レポート

8月2日(水)、第8回仙台国際音楽コンクール・ヴァイオリン部門第4位に入賞されたホン・ソンランさん(韓国)をお招きし、「ボランティアプロジェクトVol.28 真夏の夜の演奏会」を日立システムズホール仙台・交流ホールにて開催しました。このコンサートシリーズはコンクールボランティア有志により定期的に企画運営されているもので、今回28回目となりました。前半はソンランさんの演奏を満喫しました(ピアノ共演:文京華さん)。特に印象に残ったのはソンランさんと同郷の作曲家シン・ギユイボクによる「面影」という曲で、心に訴えかけるような演奏でした。後半のトークでは、浴衣に着替えての登壇に会場が沸きました。ヴァイオリンとの出会いから、仙台のコンクールでの思い出まで、画像も使って楽しくお話いただきました。曲を通して、人々の共感を育む演奏家になりたいというソンランさん。またの来仙を心よりお待ちしております。そして、この日ご来場いただいた260名のお客様にも、心より感謝申し上げます。

仙台国際音楽コンクールの印象はどうでしたか。
すごく大きなコンクールなので、予備審査に通るとも思っていなかったのに、まさかファイナルまで進むとは、という感じでした。予選からオーケストラと共演させていただける点が印象的でした。あとは仙台の方、ボランティア、お客様の皆さんが本当に温かくアットホームな感じでサポート、応援して下さり、全ての本番を楽しく演奏できました。演奏中に弦が切れてしまったのですが、その時もみんなすごく温かく対応してくださってとても安心しました。普通のコンクールとは全然雰囲気違ってましたね。

ファイナルでサン＝サーンスを選ばれた理由は。
もともとすごく好きな曲で、東京音楽コンクールの本選でも演奏したので安心して弾けるというのも一つあるのですが、私はドイツ音楽よりもフランスの音楽のほうが好きなので、せっかくならと思って選びました。

現在使われているヴァイオリンについて教えてください。
宗次コレクションから貸与されたストラディヴァリウスです。普通の楽器と同じように弾くと、ストラディヴァリウスの音が出なくなるから気をつけなさいと言われていました。使っていくうちにだんだん馴染んできていい音が出るようになりますね。最初は楽器がすごすぎて、自分の音を鳴らせないのが難しかったです。特にいい楽器ほどその楽器が持つ音色があるから、それに負けて音色が変えられなかったりするのですが、それも経験の一つだなと思っています。三年間貸していただけるので、もっといい音が出せるように研究中です。

ご自身の性格、好きなこと、趣味などを教えてください。
性格は明るいのが一番ですね。結構人と話すのも好きだし、コミュニケーション能力が自分でも高い方かなと思っています。これといった趣味は無いのですがドラマを見たり、携帯ですべて映画を見たりしたり、とりあえず一人でダラダラするのが好きです。クラシックオタクでも無いので、休みの日は全くクラシック音楽を聴きません。作曲家ではモーツァルトが一番好きです。小さい時から大好きで、音楽がとても自然だと思います。いい意味で何も考えなくても、ああいう素晴らしい曲が出来てすごいと思います。自分でもモーツァルトは自然に演奏できるところが合っていると思います。コンチェルトは5番が大好きです。

今後の活動予定について教えてください。
紀尾井ホール室内管弦楽団のシーズンメンバーとして、9月と11月の定期演奏会に出ます。あとは反田恭平さんプロデュースのオーケストラ、JNO(ジャパンナショナルオーケストラ)のツアーで何回か出させて頂いたり、11月には東京音楽コンクール入賞の副賞として上野deクラシックという公演に出演します。12月はクリスマスに名古屋の宗次ホールでもリサイタルがあります。

今後はオーケストラとソリスト、どちらの方向に進みたいと思われていますか。
もともとオーケストラ志望で大学四年生の時は入団試験を受けようかと思っていましたが、オーケストラに入るにはまだ早い、もっと勉強してからでもいいんじゃないかと先生方に言われました。今はオーケストラだけでなく室内楽もできるような音楽家になれるのが理想なのですが、まだ悩中です。

